

小城市立岩松小学校 学校だより 第41号	 岩松小だより	令和8年2月13日発行 発行者 校長 真子靖弘
-------------------------	---	----------------------------

溢れる笑顔と成長の足跡—授業参観アンケートより—

2/5(木)の授業参観には、**8割を超える**多くの保護者様に見守られ、子供たちは少し照れながらも、誇らしげな表情で学習に取り組んでいました。

アンケートには、「**子供たちの夢を語る姿に成長を感じた**」「**名前の意味を知り、改めて絆を感じた**」といった、ご家庭での対話が目に浮かぶような感想が寄せられました。また、「**失敗を恐れず挑戦できる環境**」や「**上級生としての自覚**」など、学校生活の中での変化をポジティブに捉えてくださったことは、私たち教職員にとって何よりの喜びです。

磁石の実験やコサージュ作りなど、親子で「ワクワク」を共有できた時間は、子供たちにとって大きな自信となったはずです。

いただいたお言葉を大切に、これからも**子供たちが「自分らしく」挑戦し続けられるよう、日々の教育活動を充実させてまいります。**

地域への感謝を胸に—「ありがとうプロジェクト」—

卒業まで残りわずかとなった**6年生**。これまで登下校の見守りや体験学習などでお世話になった地域の皆様へ、「**感謝の気持ち**を伝えたい」と様々な活動に取り組んでいます。



2/3(火)には岩松支館を訪問。6年間の感謝を込めて、施設内の隅々まで心を込めて**清掃**を行いました。また、自分たちでデザインした「**手作りの『のぼり旗』**」を**プレゼント**し、江里口支館様にも大変喜んでいただきました。

この活動は今後も続き、「早木店」や「岩松保育園」など、自分たちの成長を支えてくれた場所を順次訪問する予定です。地域の中で育った自覚を持ち、自ら考えて動く6年生の姿は、最高学年として非常に頼もしく感じられます。



1年生の願いを形に—優しさとアイデアの『節分』—

2/6(金)の昼休み、体育館から弾けるような歓声が聞こえてきました。**6年生**による「**七夕プロジェクト**」第2弾、「**節分豆入れ大会**」の開催です。

これは1年生の「**節分に豆まきをしたい!**」という願いを、6年生が創意工夫を凝らして形にしたもの。不気味な音楽がボリュームを増し、緊張感がピークに達した瞬間、3匹の鬼が登場！1年生は「**キャー!**」と歓声を上げながら、鬼が背負うカゴを目指して体育館中を駆け回りました。中には、迫力ある音楽に思わず涙してしまう微笑ましい一幕もありましたが、最後は6年生が外に並んで花道を作り、一人ひとりとハイタッチ。1年生の顔には、達成感と安堵の笑顔が溢れていました。



下級生の願いを真剣に受け止め、最高の思い出へと変えた6年生。その企画力と優しさに、再度、頼もしい背中を感じた一日となりました。



自分で打った蕎麦は最高!

「**よいしょ、よいしょ!**」と力強く生地をこねる**4年生**の元気な声が調理室に響きました。2/9(月)、**江里山蕎麦の会**の皆様をお招きし、**そば打ち体験**を実施。小城市の食や歴史について探究してきた子供たちにとって、待ちに待った「最後の仕上げ」の授業でした。

慣れない手つきながらも、自分でゆで上げたそばを前にした子供たちの目は**キラキラ**。太い麺も細い麺も、自分だけの「特製そば」です。一口食べて「**美味しい!**」と笑顔が弾ける姿に、地域の文化を継承する大切さを改めて実感しました。

伝統を繋いでくださる地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

